診察などでお待ちの間にお読み頂くパンフレットです。

# 札幌医療センターつうしん

令和 4年 7月 1日　発行
ＫＫＲ札幌医療センター
〒０６２－０９３１
札幌市豊平区平岸１条６丁目３－４０
電話（０１１）８２２－１８１１
http://www.kkr-smc.com

（2022－5 号）

**理　念**

"病院は人"のこころで、活力ある病院、選ばれる病院を創ります
生命の尊厳を保ち、健康の回復につくします
温かな配慮で安寧(あんねい)につくします

**基 本 方 針**

1. "生活の質"向上に重きをおく医療を心がけます
2. 安全を確保し、時代を先取りした医療を推進します
3. 患者さんの声に耳を傾け、分かりやすく説明します
4. 医療の情報を進んで開示します
5. 地域に信頼される医療を目指します

**7 月(文月)のこよみ**

| | | |
|---|---|---|
| 7 月 | 7 日（木） | 七夕 |
| 7 月 | 18 日（月・祝） | 海の日 |
| 7 月 | 23 日（土） | 大暑 |

## ロボット手術

母子・女性センター長　西　信也

当院産婦人科もロボット手術を導入することとなりました。ロボット手術は正式には「ロボット支援下手術」と呼ばれています。このロボット手術のうち、最も有名なものが米国のインテュイティブサージカル社が開発したダビンチサージカルシステム（以下ダビンチ）です。当院で導入したのもこのダビンチです。2000 年に FDA（米国食品医薬品局）から承認を受け、日本では 2009 年に厚生労働省から医療機器として承認されています。
ロボットと言っても、「マジンガーZ」や映画「スターウォーズ」の「C-3PO」のような人型ロボットが手術をするわけではありません。

ロボットは数本の多関節アーム（手）とその制御装置から構成され、執刀医は内視鏡からの 3D 画像を見ながら多関節アームを操作し手術を行います。このアームは人間の腕では不可能な動作が可能です。「毛筆で米粒に漢字を書くような細かい作業や、1 円玉より小さな折り鶴を折ることもできる」とされています。
元々、この技術は 1980 年代のコンピューター技術の飛躍的な進歩を受け、宇宙、海洋（深海）、核物質処理関連、鉱山など危険な環境下で作業を行うロボット遠隔操作として発展してきました。この技術を内視鏡手術にも応用しようと 1990 年前後より開発が進められてきました。ここまでで気付いた方もいらっしゃるかと思いますが、この手術ロボット、自律型ではなく、マスター-スレイブ型なのです。「AI の発達により人間の仕事が奪われる」、「これからの手術はロボットがやるので外科医は必要なくなる」ということではなく、人間がロボットを操作する、言い換えるとロボットは手術を支援してくれる”パートナー”に過ぎません。あくまでも「ロボット支援下内視鏡手術」なのです。

鮮明な 3D 画像、自由自在に動くアーム、と良いことずくめのように思えますが、機器のコストなど頭が痛い部分もあります。これまでダビンチ一強でしたが国産の手術ロボットも出始めているようです。この点も今後大いに期待したいところです。

©2022 Intuitive Surgical

当院は≪敷地内全面禁煙≫となっております

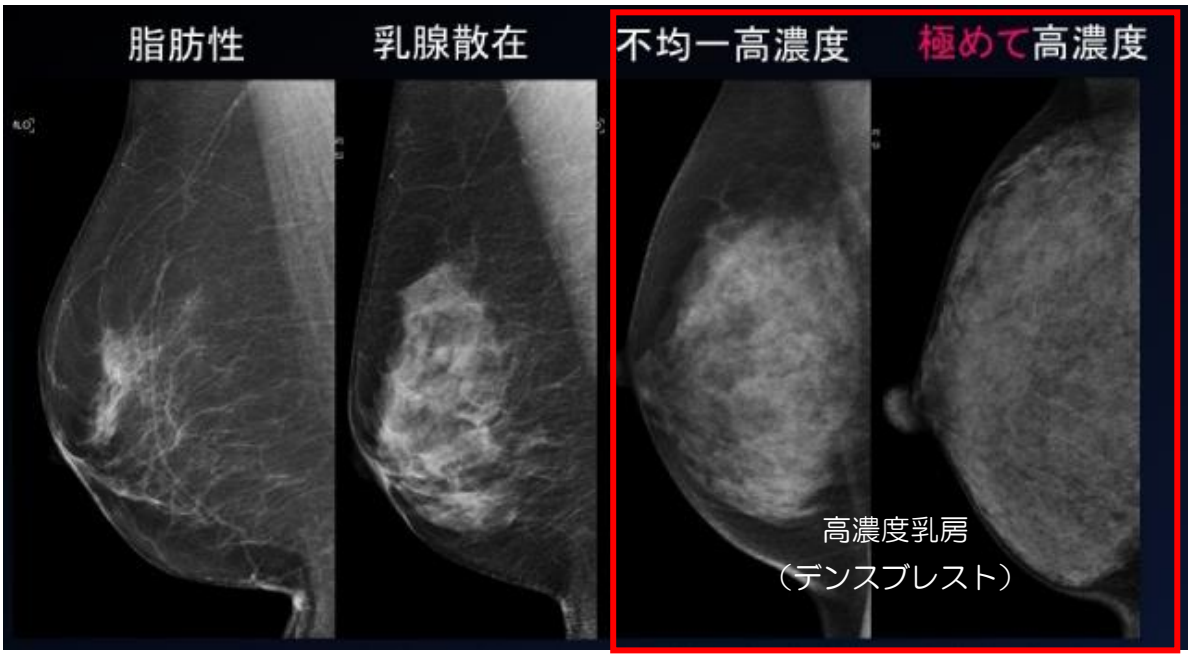
# 高濃度乳房（デンスブレスト）とマンモグラフィ

放射線技術科　　阿部　裕子

【高濃度乳房とは】

マンモグラフィ（乳房Ｘ線画像）による乳癌検診において、話題にのぼるのが高濃度乳房（デンスブレスト）です。マンモグラフィでは画像上白く見える部分が乳腺です。この乳腺の占める割合が多い乳房を高濃度乳房（デンスブレスト）と呼んでいます。これは病気を指しているのではなく、病変が乳腺に隠されてしまう程度をあらわしており、高濃度乳腺全例が判読困難というわけではありません。マンモグラフィが早期発見に大きく役立つケースもたくさんあります。

対策型乳がん検診（市区町村が行う住民検診）では２年に一度のマンモグラフィ検査が推奨されております。




日本乳がん検診精度管理中央機構 HP より抜粋

【マンモグラフィを撮影するにあたって】

乳腺はブドウの房に例えられます。撮影はこの房（乳腺）を押し広げた状態にすることで病変を写しだすことが可能になります。しかし乳腺を写真上に押し広げた状態に（圧迫）する時に、痛みを伴うことがあります。乳腺量の多いデンスブレストではこの傾向がしばしば見られます。

受診者の方にとって苦痛に感じられるかと思いますが、適切な圧迫をすることにより被ばく線量が少なくなり、乳腺を伸展させることができるので画質（病変の検出率）が向上します。これによって病変の早期発見が可能になります。撮影時には声をかけながら痛みを我慢できるところまでに低減できるように心がけておりますが、圧迫が不十分だと撮影時に動いてしまうためご協力をいただけるとさいわいです。マンモグラフィは受診者と撮影技師が作り上げていく芸術作品のようなものです。一緒により良い画像を作るためにご協力をお願いいたします。

【症状のある方は検診ではなく受診を】

ごくまれにですが、症状がある方（しこりが触れる等）・すでに検診で異常を指摘されている方が検診を受けられていることがあります。このような場合は検診ではなく、乳腺外科の診察を受けていただくことで早期に治療を受けることが可能になると思われます。